

りんご栽培情報第4号

令和5年6月15日
氷見市りんご組合
J A 氷見市
富山県高岡農林振興センター

■ 1 生育概況について

- ・「ふじ」の果実肥大は、平年並み～やや大きいです。
- ・4月の晩霜による被害（サビ果、傷果）が散見されます。
- ・アブラムシ類の発生が散見されます。

■ 2 摘果の見直しについて

大玉果生産のために、仕上げ摘果が終了していない場合は、早急に完了するとともに、随時、摘果の見直しを行い、サビ果、傷果、小果や変形果等の除去に努めてください。

日当たりが良く、直射日光が当たって赤く色付いている果実は、日焼け果になりやすいので、全体の着果量を考慮し、優先的に取り除きましょう。

■ 3 今後の病虫害防除

回数	時期	対象病虫害	散布薬剤名	希釈倍数	10a当 散布量	100㎡当 必要薬剤(g, cc)	防除実施日 (自己記入)
10	7月1～ 3日頃	輪紋病、斑点落葉病、褐斑病、炭疽病 カメムシ類、キンモンホソガ (展着剤)	オキシラン水和剤 ダントツ水溶剤 マイリノ一	500倍 4,000倍 20,000倍	500㎡	200g 25g 5cc	月 日
11	7月11～ 13日頃	輪紋病、斑点落葉病、褐斑病、炭疽病 ハマキムシ類、カメムシ類 (展着剤)	ダイパワー水和剤 スミチオン水和剤40 マイリノ一	1,000倍 1,000倍 20,000倍	500㎡	100g 100g 5cc	月 日
12	7月21～ 23日頃	斑点落葉病、褐斑病、黒星病 (展着剤)	ユニックス顆粒水和剤47 マイリノ一	2,000倍 20,000倍	500㎡	50g 5cc	月 日

※カメムシ類の今年の発生は、やや多いと予測されています。7月中旬以降、園地内への飛来が確認される場合は、速やかに防除（モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 3回以内 収穫前日まで）を実施してください。

※梅雨時期は、褐斑病、輪紋病、斑点落葉病などの重要防除時期です。薬剤散布間隔10日以内を厳守してください。

※防除は、散布ムラのないようていねいに行ってください。特に前年、褐斑病の発生が多かった園地や、すでに発生が見られる園地では、適用の範囲内で散布量を増やすなど、対策を強化してください。

※ハダニ類は、高温乾燥状態が続くと急増するので、発生密度、種類等の確認に努め、発生が見られた場合は、直ちにマイトコーネフロアブル（1,000倍、前日まで、1回）を散布してください。

■ 4 カミキリムシ類の対策について

ゴマダラカミキリの成虫（写真1）は、6月中旬から8月頃に発生し、7月から8月上旬頃が産卵期です。

クワカミキリの成虫は、7月中旬から8月頃に発生し、7月中旬頃から8月上旬頃が産卵期です。

カミキリムシ類による被害が見られるほ場では、成虫の捕殺に努め、下記の殺虫剤で生育ステージに合わせた防除を行ってください。



写真1
ゴマダラカミキリムシ成虫

カミキリムシ類に登録がある殺虫剤

商品名	使用生育ステージ	特徴
ロビンフッド	幼虫	エアゾール式殺虫剤
バイオリサ・カミキリ	成虫	糸状菌を利用した生物農薬
ガットサイドS	卵	穿孔性害虫の食入、産卵阻止
トラサイドA乳剤	幼虫	樹皮内の穿孔性害虫幼虫を殺虫

カミキリムシ類に登録がある殺虫剤の使用にあたって

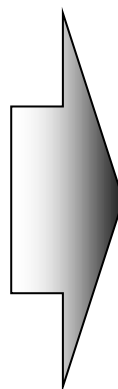
農薬名	希釈倍数	使用時期	総使用回数	使用方法
ロビンフッド	—	収穫前日まで	5回以内	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射
バイオリサ・カミキリ	1樹当たり1本	成虫発生初期	—	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける
ガットサイドS	1(原液)～1.5倍	6～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)但し収穫30日前まで	3回以内※	主幹地際部から約50cmの高さまで塗布
トラサイドA乳剤	200倍	産卵初期～産卵最盛期直前但し収穫30日前まで	3回以内※	樹幹部に十分散布 (注意) 葉にかかると薬害を生じやすいため、樹幹部のみに散布する。

※合わせて3回以内

■ 5 徒長枝の整理について

実施日 /

受光環境の改善や薬剤到達性の向上のため、主幹および主枝基部から1m程度の間で発生している新梢を切除してください（写真2）。ただし、主枝骨格枝の背面の日焼け防止のため、20～30cm間隔に1本程度、新梢の向きを揃えて残してください。



- ・ 20～30 cm間隔に1本程度残す
- ・ ハゲ上がらせない

写真2 新梢管理の例
(左: 新梢管理前 右: 新梢管理後)